

インターネット内部には、世界の現状をリアルタイムで表現している様々なサイトがある。有名な事例としては世界の人口の増加を時々刻々表示しているアメリカの国勢調査機関のサイト、日本や都道府県の長期債務残高の増加を表示する個人のサイトなどがある。世界の人口は一〇秒間に三〇人弱の増加、日本の長期債務残高は一〇秒間に二二〇万円の増加であり、現在の社会の異常な状態を実感させる。

情報社会の異常を表示するサイトもある。インターネットの利用者数は一〇秒間に七人の割合で増加し、現在では一六億人が利用している。それらの人々が発信する電子メールは一〇秒間で三千万通であるから、一日に二六〇〇億通が往来していることになり、人々がブログに記入している文章は一〇秒間に八〇〇で、一日に七〇〇万件になる。世界の人々がグーグルで検索する件数は一〇秒間に一五万件程度で、一日に一三億件になる。

このような状況を表現するエクサフラッドという言葉が発明されている。エクサは一〇の一八乗を表示する接辞で、日本の単位では一〇〇京であり、フラッドは洪水であるから、情報洪水を意味する言葉である。アメリカの調査会社の推計では、〇六年に世界全体で生産されたデジタル情報は一六一エクサバイトであったが、四年間で一・六倍に増加し、今年は九八八エクサバイトになる。これは三桁上のゼタバイトの規模である。

これがどの程度の規模かを計算してみると、これまで人間が出版してきた書物の情報の一八〇〇万倍、逆算すれば現代の二秒間の情報が過去の人類が記録した情報に匹敵する。これは家庭にあるテレビジョン番組を記録する現状で最大のハードディスク装置五億台、五千万人の人間の頭脳の記憶容量に匹敵する。電子メールの九〇%以上は迷惑メールという推計もあるから、すべてが有用ではないにしても、完全な情報爆発である。

ここまでの数字は社会の発展と理解することも可能であるが、社会の矛盾をリアルタイムで表示する数字もある。世界で栄養過多の人数は一億五千万人、肥満の人数は三億四千万人、その栄養過多の人間は二秒に一人の比率で増加し、年間一億六千万人の増加になる。その一方、栄養不足に直面している人数は一〇億二千万人、そして餓死者数は一〇秒間で三人、すなわち年間九五〇万人になる。

アメリカについてのリアルタイムの表示では、さらなる矛盾が暴露される。アメリカ全体で廃棄される食糧の費用は一日に一三〇億円、減量の努力に支払われる金額は一日一二〇億円、肥満による病気の治療の費用が一日二六〇億円である。その一方、世界が食糧援助に支出している金額は一日三五億円ではない。これを重量で表現すると、アメリカで一日に廃棄される食糧が一三万トン、世界の食糧援助が三万トンである。

これらの数字が表現していることは格差の存在、すなわち配分の問題である。アメリカの相対的貧困率はOECD諸国では最大であり、所得の分配の不平等性を表示するジニ係数も先進諸国では最大になっている。実際、アメリカの所得の上位一%の人々が国民所得の四〇%を占有しているという統計もある。ただし、日本も威張れる状況ではなく、相対的貧困率は二位、ジニ係数も計算することに上昇している。

アメリカ国民が廃棄する食糧と世界の食糧援助の数字を比較すれば、廃棄する食糧を二五%削減するだけで世界の飢餓に直面している人々は救済されることになる。人口が増加すれば、長期では鉱物資源も食糧も淡水も限界に到達することは回避できないが、当面は配分を是正することが世界の紛争を解決することになる。人間は「寡なきを患えずして均しからざるを患う」（論語）のである。